

事業所名

放課後等デイサービスあおぞら御池

支援プログラム

作成日

令和7年

3月

18日

法人（事業所）理念		『生きる、楽しく、第二のおうち。』を合言葉に、昨日より今日、今日より明日と日々それぞれのスタッフがそれぞれ自身を超えていく。超えていった先に生まれるものは感動であり、利用者に日々感動を提供することも私たちの使命である。感動を提供した先に生まれる安心感により、利用者とそのご家族の安心の場をつくることを目標とし、障害福祉のプロ集団として日本中の障害福祉サービスのクオリティを底上げすることを目指す。	
支援方針		“自分”から周りのお友だちや職員との関わりに繋げ、周囲への興味関心も広げていく。課外活動を通して様々な社会経験を積み、社会との繋がりも深めていく。人や物、周囲と繋がりを、本人にとっての世界を広げていく。 それぞれの現状や今の課題に目を向け、常に支援の内容をアップデートしながら、それぞれにとって今一番必要な支援について日々模索し、提供する。 子どもたちにとっても、保護者にとっても、第二のおうちとして安心して過ごせる場・頼れる場となる。	
営業時間		平日 11:00～19:00 土日祝・長期休暇 9:00-18:30	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	靴を下駄箱に片付ける、自身の名前をついたカゴに荷物を入れる、カバンから連絡帳を出す等、来所時にやるべきことを習慣化し、自身で取り組んでもらえるようにする。 食事やトイレ、着替え等の身の回りのことをスモールステップでできるようになり、身辺自立に繋げていく。 お皿洗いや机拭き、掃除機掛け等のお手伝いに取り組む時間を設けることで、生活に沿ったスキルを高める。	
	運動・感覚	平日には近所の公園での公園遊びやリトミックダンス、休日にはスポーツセンターやプール大きな公園での公園遊び等を取り入れ、活動の中でしっかりと身体を動かす。 紐結び課題やキャップパズル等の指先支援課題やアイロンビーズやレゴブロック等の玩具遊び、工作活動を通して、指先の感覚を養う。 ボール遊びやシール貼り等の活動を通して、目と手の協応の力を高める。	
	認知・行動	過ごしの中でできた隙間時間には、プリント学習や個別課題(色分け課題・ハサミの練習等)を提供し、それぞれに合わせた課題に取り組めるようにする。 ホワイトボードに当日のスケジュールを記載して提示したり、当日来所しているメンバーの顔写真を掲示しそれを使用して外出時の車内の座席表を作ったり、スケジュールを理解し見通しを持って過ごせるようにする。 マッチング課題やジグソーパズル、クアドリラ等を楽しむ機会を設けることで、物の認知力や集中力を高める。	
	言語 コミュニケーション	言語を獲得し、そこから更に語彙を広げていく。 生活の中での挨拶や、場面・相手に合わせた言葉遣い等を日常的に練習する。 クレヨンや絵カード、ジェスチャー等を使用しながら、言葉が無くても言葉以外のツールを使用することでコミュニケーション能力の向上を目指す。	
	人間関係 社会性	玩具の使用やルール遊び、クッキングや工作活動を通して、1人きりではなく他者と一緒に楽しむ経験を積む。その経験の中で協調性を養う。 休日には公共交通機関の利用や一般施設見学等、積極的に地域に出て行く活動を取り入れ、社会と繋がる機会を持つ。 お買い物の活動や休日利用時の昼食購入の機会を通して買い物学習を行い、お金の支払いの仕方や計算ができるようになる。	
家族支援		送迎時の丁寧な引継ぎを心がけ、保護者さまと日々お互いに情報を共有しながらお子さまへの支援を行い、共に成長を見守っていく体制作り。 定期的な懇談、加えて要望や必要性に応じて臨時的懇談を行い、保護者さまの思いを傾聴する機会を整える。	移行支援 児童保育や卒業後の就労先に繋がるように、調整や連携を図る。 事業所の近くにバスや地下鉄の駅があり、それらを利用した自主通所の練習を行う。
地域支援・地域連携		子どもたちが通う学校や他社デイ、相談支援事業所と積極的に連携を図る。 他機関や保護者からの要望に応じて、カンファレンスを実施する。	職員の質の向上 社内研修の実施、社外研修への参加。 事業所内で療育会議を実施し、子どもに関する意見交換の場を設けている。
主な行事等		季節感を感じられる活動(四季に合わせた工作活動・クッキング、水遊び・プール、芋ほり体験、クリスマス会、餅つき)の実施。 工場見学や施設見学、総合運動公園での公園遊びや他府県への外出。	